

看 護

1 教育課程研究協議会の経過（平成11年度～14年度）

高等学校における専門教科「看護」の新しい教育課程の編成・実施に向け、平成11年度から「高等学校新教育課程編成の手引」を作成・配付するとともに、教育課程研究協議会を開催し、手引を用いて学習指導要領改訂の趣旨や指導計画等についての説明や協議を行ってきた。

平成11年度からの手引及び説明の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成11年度	1 科目編成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容	(教育課程研究協議会の看護部会は開催されなかった。)
12年度	1 各科目 2 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・科目構成について ・原則履修科目と代替について ・教科と科目の目標について ・科目の内容と取扱いについて
13年度	1 看護科の教育課程の編成 (1) 基本的な考え方 (2) 配慮すべき事項 2 指導計画と内容の取扱い 3 指導計画の作成 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・資格を考慮した教育課程の編成について ・科目の関連と系統的な指導計画について ・科目「基礎看護」の指導計画について ・評価の観点について
14年度	1 看護科の学習指導の改善 (1) 学習指導の改善の視点 (2) 効果的な学習指導 2 評価の工夫 (1) 基本的な考え方 (2) 評価の方法 (3) 評価の工夫・改善の視点 3 指導案 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識と技術の確実な定着を図る指導について ・学習指導と資格取得との関係について ・望ましい看護観の育成について ・教材の効果的活用について ・指導の改善に生かす評価の工夫について ・「日常生活と看護」の指導案と観点別評価について

2 学習指導の改善・充実

(1) 個に応じた指導の工夫

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術の定着を図り、自ら判断し行動できる力を育て、看護師としての資質や能力を身に付けさせるために、生徒の学習状況を的確に把握し、指導方法を工夫することが必要である。

学習内容の理解や習熟度の程度が十分な生徒に対しては、発展的な学習を実施してさらに力を伸ばし、また、理解や習熟が十分でない生徒に対しては、基礎的・基本的な内容を確実に習得させるため、補充的な学習を実施するなど、個に応じた具体的な指導方法の工夫が必要である。

○ 個に応じた指導の工夫例 ～「基礎看護」～

「基礎看護」は、看護の意義や役割を理解させ、望ましい看護観や倫理観を育成する科目であり、看護の学習の基礎となることから、個に応じた指導により、生徒一人一人に基本的な知識と技術を確実に定着させることが大切である。

- ・ビデオ等の視聴により診察介助等の具体的なイメージ化を図るとともに、その重要性を認識させ、一人一人の生徒に学習意欲を持たせる。
- ・模擬的な臨床実習の状況を設定（シミュレーション）し、具体的に指導する中で、状況に応じた看護を判断できるようにする。
- ・無菌操作等を繰り返し練習させることにより、基礎的・基本的な技術を身に付けさせ、一人一人の生徒に自信を持たせるようにする。
- ・実習記録をまとめさせたり、確認テストを行い、生徒一人一人の基本的な知識の定着を確認し、定着の不十分な生徒への補充的な指導を行う。

(2) 指導と評価の工夫・改善

ア 評価計画の作成

客観的で継続的な評価を行うためには、評価計画を含めた指導計画を立てることが大切である。その際、毎時間の授業で4つの観点すべてを評価する必要はなく、単元ごと（あるいは学習内容のまとまり）または学期ごとの評価の中に、4つの観点が含まれるよう計画を工夫する必要がある。

例えば、看護技術を身に付けるための実習や実技の評価については、次のような工夫により、生徒の学習状況を的確に把握することが大切である。

○ 実習

実習日誌に記述されている「結果」からは「技能・表現」を評価できるよう、また、「考察」からは「思考・判断」を、「感想」からは「関心・意欲・態度」をそれぞれ評価できるようにするなど、記録の様式を工夫・改善する。

○ 実技

実技テストにおいては、生徒に評価の観点を示し、自己評価や相互評価を活用するとともに、複数の教員による評価を行うなど工夫する。

イ 指導の改善に生かす評価の工夫

教育活動において、計画、実践、評価という一連の繰り返しが大切である。また、評価の結果を受けてその後の指導を改善し、さらに発展的な指導の成果を再評価するという、指導に生かす評価を充実させることも重要である。

特に、看護師には臨床場面での実践力や応用力が求められることから、授業において臨床場面を模擬的に学習する機会を設け、基礎的な知識や技術を総合させる力を身に付けさせることができるよう評価の充実を図り、指導方法の改善につなげることが大切である。

「基礎看護」において、各単元で個別に身に付けた看護に関する知識や技術等を総合的に身に付けさせるための指導計画と評価の一部を次の表に示した。

表 看護体験パート I

学習内容：左半身麻痺の患者に同時にシーツ交換、清拭、寝衣交換を実施しよう

指導段階 (配当時間)	指導内容	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
I (1時間)	1 グループ分け(1班4名)をさせる。 2 テーマ「左半身麻痺患者の清潔援助」について説明する。 3 援助の方法(安全・安楽を考えた効率のよい方法)を話し合わせる。 4 話し合った結果を実習日誌にまとめさせる。		○		○
II (2時間)	1 グループ内で役割分担(患者役1名、看護師役1名、観察者1名)をさせる。 2 話し合った援助方法を実施させる。 3 実施結果を実習日誌にまとめさせ、発表の準備をさせる。	○		○	
III (1時間)	1 各グループごとに実習結果の発表をさせる。 2 発表のまとめとして、援助に必要な視点を確認させる。		○	○	

(3) 科目「基礎看護」のシラバス (例)

教科名	看護科	科目名	基礎看護
科目の目標	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を適切に行う能力と態度を育てる。		
履修学年	1学年	学科・コース	衛生看護科
単位数	5単位	授業形態	講義、グループ学習、校内実習
教科書	基礎看護	副教材等	○○○○
1 学習の目標	<p>(1) 看護の役割について関心を持ち、看護の改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付ける。</p> <p>(2) 看護活動を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付ける。</p> <p>(3) 日常生活の援助および診療における看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。</p> <p>(4) 看護の意義と保健・医療・福祉における看護の意義や役割を理解する。</p>		
2 学習内容と進め方	<p>1学年では、次のような学習します。</p> <p>(1) 看護の対象と役割を学びます。</p> <p>(2) 日常生活の援助に対する基本的な知識・技術を学び、また対象に応じた(個別)援助を校内実習で行います。</p> <p>(3) 診療の場面での看護活動を学習し、実際の医療用具を用い校内で実習します。</p> <p>※ 2学年では「学習、生産的な活動、レクリエーション」、「救急処置」、「看護過程」、3学年では「看護職とその倫理」を学習します。</p>		
3 学習の留意点	<p>(1) 普段の生活で看護に関する話題に興味を持ち、看護の在り方について考えることが大切です。</p> <p>(2) 校内実習の患者役の時、どのように援助されたら安楽なのかを考え、看護師役の時、援助方法の理由を考え、状況に応じた看護ができるように心がけてください。</p> <p>(3) 実習日誌は教科書に書かれている方法と校内実習で行った援助法とを比べて、学んだ点や反省点をまとめていきます。</p> <p>(4) 専門用語が多く出てきますので、その言葉の意味を調べて理解することが大切です。</p>		
4 評価の方法	<p>(1) 観点</p> <p>① 看護の役割について関心を持ち、講義や実習に積極的に取り組むことができたか。</p> <p>② 援助の必要性を考え、対象者の状況を適切に判断し、創意工夫することができたか。</p> <p>③ 適切な援助法を身に付け、合理的な援助計画を立案し、自分の考えたことを行動として表現できたか。</p> <p>④ 看護に関する基礎的・基本的な知識が身に付き、看護の役割が理解できたか。</p> <p>(2) 方法</p> <p>授業態度、各種提出物の状況、実技練習の様子、実技テスト、実習日誌、小テスト、定期考査、自己評価等</p>		

5 授業計画				
月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	考査等
4	第1章 看護の意義と役割 1 看護の対象の理解	<ul style="list-style-type: none"> 人間の各側面を把握し、看護を行うことを理解します。 看護の役割を学ぶことで、看護の向上を考えます。 看護の様々な活動場面と特徴を知り、看護の役割を理解します。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護の役割と活動場面に関心を持つことができたか。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護の役割と向上について考えることができたか。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の各側面を把握し、看護を行う重要性を理解できたか。 	アンケート レポート 行動観察
5	2 看護の意義			
5	3 看護活動の分野			
6	第2章 日常生活と看護 1 病床環境の調整	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた病床環境を整える知識と病床の作り方を身に付けます。 食事に影響を及ぼす心身の状態や環境条件について理解し、援助の技術を身に付けます。 排泄に影響を及ぼす因子について理解し援助の技術を身に付けます。 姿勢や体位、運動が健康に及ぼす影響を理解します。援助するときは、ボディメカニクスの原理に基づいて行います。 睡眠と休息に影響を及ぼす環境因子、睡眠習慣について理解します。 清潔の意義と清潔保持の必要性を理解し、援助方法を身に付けます。 衣生活と健康の関わりについて理解し、寝衣交換の方法を身に付けます。 病床環境の調整、身体の清潔、衣生活で得た知識と技術を活用し患者の状態に応じた援助法を考え、実践します。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた病床の作り方に関心をもつことができたか。 食事の援助、排泄の援助、清潔の援助、衣生活の援助に意欲的に取り組んだか。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた病床環境を考えることができたか。 食事や排泄に影響を及ぼす因子について考えることができたか。 清潔保持の必要性和寝衣交換について考えることができたか。 <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病床の作り方と患者の状態に応じた食事、排泄、清潔、寝衣交換の技術が身に付いたか。 ボディメカニクスの原理に基づいた援助ができたか。 援助の成果を的確に表現できたか。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病床環境の調整、食事、排泄、姿勢・体位と運動、睡眠と休息、身体の清潔、衣生活に関する知識が身に付いたか。 	レポート 小テスト 行動観察 実技テスト 自己評価票 実習日誌 定期考査
7	2 食事			
8	3 排泄			
9	4 姿勢・体位と運動			
10	5 睡眠と休息			
10	6 身体の清潔			
11	7 衣生活			
11	8 看護体験パート I [左半身麻痺の患者に同時にシーツ交換、清拭、寝衣交換を実施しよう]			
12	第3章 診療と看護 1 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察	<ul style="list-style-type: none"> 体温、脈拍、呼吸、血圧を観察する意義を理解し、測定・記録・報告の知識と技術を身に付けます。 診療や検査における看護者の役割についての知識と技術を身に付けます。 薬の管理や取り扱いに関する知識と技術を身に付けます。 包帯の目的と種類に関する知識と技術を身に付けます。 巻法の目的と種類に関する知識と技術を身に付けます。 褥瘡予防と発生時の援助に関する知識と技術を身に付けます。 無菌法、院内感染予防における看護者の役割に関する知識と技術を身に付けます。 診療介助と無菌操作で得た知識と技術を活用し、状況に応じた援助法を考え、実践します。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体温、脈拍、呼吸、血圧を正しく測定し、記録、報告に意欲的に取り組んだか。 診療の補助に対して関心をもつことができたか。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体温、脈拍、呼吸、血圧を観察する意義を考えようとしたか。 診療の補助における看護者の役割について考えることができたか。 <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定に関する技術が身に付いたか。 診療介助、与薬、包帯法、巻法、褥瘡の予防と手当て、無菌法と院内感染の予防についての技術が身に付いたか。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定に関する知識が身に付いたか。 診療介助、与薬、包帯法、巻法、褥瘡の予防と手当て、無菌法と院内感染の予防についての知識が身に付いたか。 	レポート 小テスト 行動観察 実技テスト 自己評価票 実習日誌 定期考査
1	2 診療・検査と看護			
1	3 与薬			
1	4 包帯法			
1	5 巻法			
2	6 褥瘡の子防と手当て			
2	7 無菌法と院内感染の予防			
3	8 看護体験パート II [診療介助と無菌操作を実施しよう]			